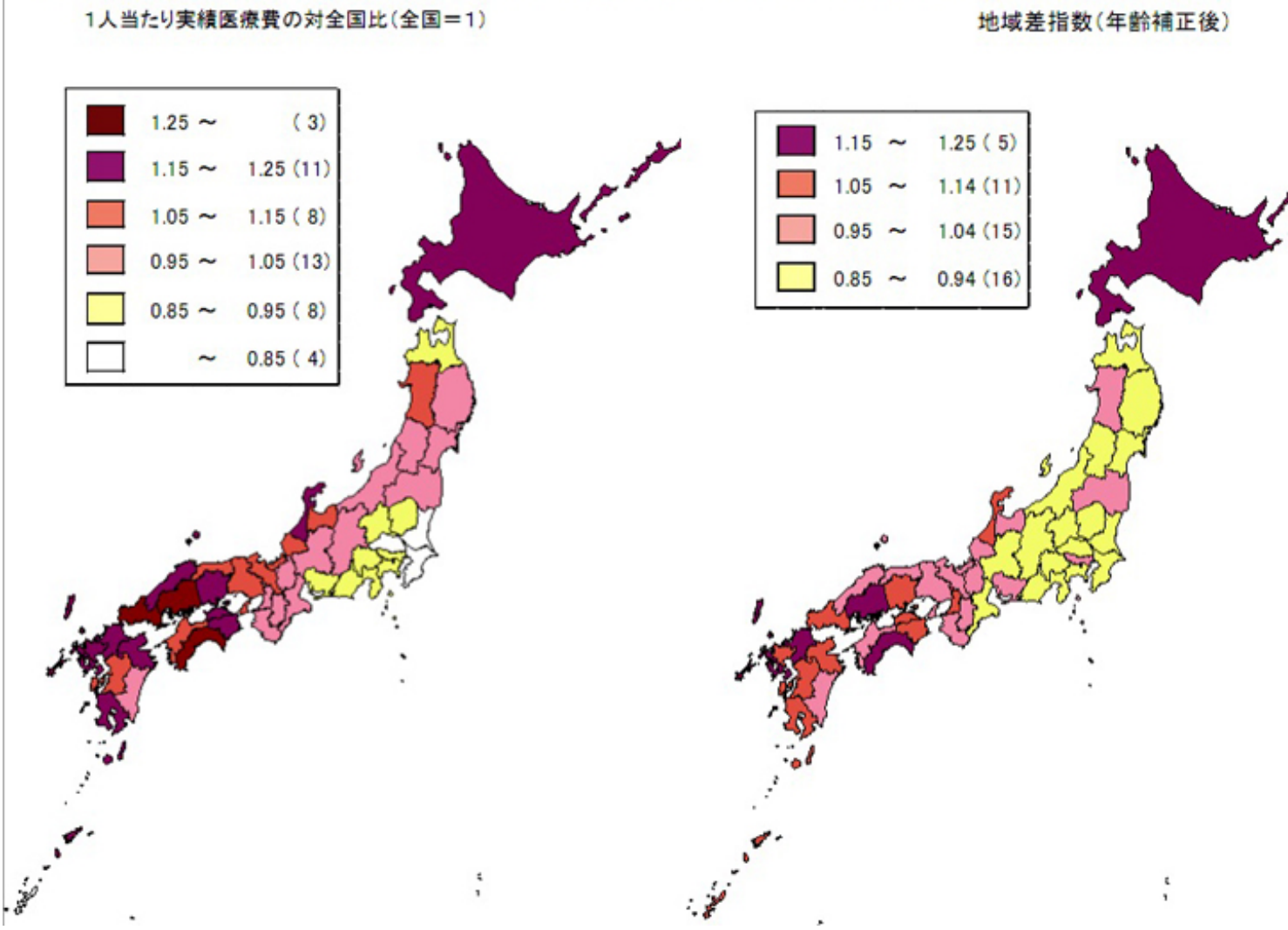
年々膨らむ一方の医療費。これをどのように適正にすべきは、いまのところ名解決策はない。そんななか、厚生労働省は、「医療費の地域差（医療費マップ）」の平成21年度版を公表した。これは、都道府県や市町村別にみた医療費水準の地域差について、とりまとめたもの。

市町村国民健康保険と後期高齢者医療制度の結果を合わせた、全体の医療費をみると、1人当たり実績医療費は、高知県が最も高く57万2千円で、逆に最も低いのは千葉県で36万3千円だった。２００９年度の国民１人当たり医療費の全国平均は４４万５千円。最も高かった高知県の最も低い千葉県の３６万３千円では、１・６倍の差がある。

　都道府県別でみると、高知に次いで高いのは山口（５６万１千円）、広島（５５万８千円）など。低い順では、千葉に次いで沖縄（３６万９千円）、埼玉（３７万円）と続いた。厚労省は「入院費用が高く高齢者が多い地域ほど、医療費も高くなる傾向がある」としている。

　入院費用が高いというのは、その地域で高齢化社会が進んでいる証しでもある。この高齢化社会問題も、いまのところどう解決していくべきか、国には確固たる方針はないようだ。

（3） 医療費マップ（市町村国民健康保険＋後期高齢者医療制度、都道府県別）